静岡大学教育学部同窓会誌

OHYA おおや

2019 VOL.62

Faculty of Education , SHIZUOKA UNIVERSITY

地域教育界のリーダーたれ

出席者
杉田　豊（前　同窓会長）
西条　光洋（現　同窓会長）
司会　林　のぶ（編集委員長）

司会　本日は、平成時代最後の同窓会長と、令和へのバトンタッチということで、杉田豊・前会長、西条光洋会長をお迎えして「同窓会の役割と今後の方向性」等についてお話を伺います。初めに、杉田様10年間という長きに亘り、同窓会をリードしていただきありがとうございました。10年を振り返って同窓会に対する思いなどについてお話を伺います。

支部活性化で地域貢献

杉田　10年を振り返っての第一の感想は、同窓会を通じて、「自分の人生に新たな彩りを添えてくれたこと」で心から感謝しています。正直、会長職を受けるに当たっては躊躇する気持ちが強かったのですが、本部役員をはじめ会員の皆様の協力体制を感じて不安は一瞬にして消えました。

最初の仕事は、同窓会の会則を読み返し目的を確認し方向を間違えないようにすることでした。歴史と伝統を誇る同窓会にも様々な課題があることを理解し、この課題解決に誠心誠意取り組むことが会長の責務と肝に銘じお役に立ちたいと考えました。

今、同窓会にとって大切なことは、支部活動の活性化です。多くの組織が高齢化して苦戦しています。支部活動の活性化には、若い会員をどう巻き込むかが課題と認識しています。本学同窓会という枠を超えて県の教育界のリーダーとしての矜持・自負を持っていただきたい。他大学も巻き込んで地域に貢献して欲しいと思っています。

教員を目指す卒業生への支援

児童・生徒の減少により、教員採用試験は従前に比べかなり困難な状況にあります。私立大学等が実施している就職の支援活動を、大学の了解を得た上で実施することにしました。支援により合格率は簡単にアップすると思っていた自分を反省し地道な支援を継続することにしました。幸い、OBの皆様の献身的な尽力、併せて大学当局の理解により「合格率」は高い水準にまで持ち直してきました。100%合格が究極のねらいです。

次に、同窓会費に関わる課題で地区の係が会費の徴収時に味わう悲哀感が心を痛めました。終身会費制にすべきだ、いや大変でも個別に訪問することのメリットを大切にしたいなどと、熱のこもった議論が最後まで続きました。しかし、終身会費制に踏み切ることにしました。終身会費制に踏み切った時の最大の課題は、ただでさえ希薄になりがちな会員同士の繋がりをどう維持していくかということでした。妙案はない。しかし、支部活動を充実させ会員同士の絆を強めることが同窓会本来の姿と信じ、反対される人たちの説得にあたりました。

また、将来を見据えての判断でしたが、入学時の学生の会費の値上げにも腐心しました。

時代の変化に対応した同窓会

司会　新しい元号とともに会長職に就かれる西条新会長に、同窓会への抱負をお話願います。

西条　杉田会長の後を引き受けることとなりました西条です。人格見識ともに優れ、多くの功績を残された杉田会長の後任ということで、身が引き締まる思いで一杯です。伝統ある静岡大学教育学部同窓会を受け継ぐことで大きな重圧を感じております。

私は、同窓会は全学部の卒業生、修了生や教職員を構成員としたアカデミックなつながりがあり、それを陰で支える後援団体と理解しています。中でも、本同窓会は、組織や活動をはじめ、大学や付属校との連携などが大変うまく機能している同窓会だと確信しています。時代の変遷とともに世の中が変わり、人々の意識も変わりつつあります。21世紀は知の時代であります。その知を受け継ぐのは大学教育です。平成11年の大学の法人化の根底には、知の時代を担う機関として学問的なものを高めなければならない。大学がその流れに沿って、学部の改組などがなされてきたことを理解しなければならない。その流れを理解し、同窓会も伝統を守りつつ、変化に対応した同窓会のあり様を模索し、同窓の皆様の要望に応えるよう頑張ります。

若手の力を支部活動に

司会　その支部活動の活性化について少し具体的にお話を、また若い会員や地域の活性化についてもお願いします。

杉田　持続可能な時代の変化に対応できる同窓会でなければいけない。変化に対応できなければ滅びる、そんな組織にはなってほしくない。そのために、支部活動の活性化が求められます。支部活動活性化の一つの手立てに、研修会の充実があります。また同窓会の目的の一つには会員の親睦を図ることですから、この親睦もアカデミックな会、研修を兼ねた会にする姿勢が必要ではないか。既に、静岡支部は若手が研修会等に参画しています。それぞれの支部にはそれぞれの特色があり、工夫すればいくらでもできると考えます。村山教授は教育学の権威で講演もしてくださいます。静岡県の教員にとってもプラスになると思います。いつも専門的な分析をされており、その結果を生で聞けるのは嬉しいことです。

西条　支部活動は今、杉田会長がおっしゃったことに尽きると思います。会則にありますが、支部活動は本同窓会の柱です。個人情報の保護、先輩と後輩の意思疎通が図れないなど支部活動が制約される要因もあります。でも、本同窓会は、会員のご努力で大変充実した活動が展開されていると思っています。

司会　若手ということで、教員になりたい学生を増やす手立てについてお話願いたいです。

杉田　３Ｋに仲間入りしている感のある教師の世界で、希望をもって教育の道に進んでいただくには困難が伴います。有効な手段の一つは教育実習とは別に早い時期に、児童・生徒に接触させ育英に携わる喜びを感じてもらうことかと思います。新規採用された一年、二年目のフレッシュな若い教員が、学部生に話すなども一方策であると思います。

西条　教員の過重勤務の実態から教員のなり手がいない、これは事実だと思う。ただ、同窓会は凄いことをやっています。学生に対する支援でも、ＯＢと大学が協力し「採用試験前の面接指導」活動は、学生からも大好評です。今後は、面接のノウハウを指導するとともに過去の教養問題の解説など、採用に向けてより充実した支援が展開できればと考えます。一人でも多くの合格者が出れば、学生の同窓会に対する見方もより前向きになると思います。

司会　そのための実習校として附属学校への支援については如何でしょうか。

杉田　卒業するとき、附属の先生は一番尊敬する先生でした。今でもそのようなイメージがあります。国立学校が法人化され、附属学校・園のあり方も様変わりしましたが、どんな時でも常に地域教育界のリーダーであってほしいと思います。

　最近は義務の先生方が附属の研究会に参加するのが減っているのではないか。その理由は、附属の授業が悪いのではなく、出張しにくい環境になっている。併せて、附属のテーマがこれでいいのかと考えたりしています。現場の先生方が期待するテーマが附属にとってよいかどうか、問題はあるが、あまり乖離しすぎると参加しても意味ないと考える。課題といえば、このあたりを附属、大学と協議することも大事ではないでしょうか。

西条　附属はある種研究機関であるため、地域の公立の学校の先生方と交流を深めること。そのため附属へ橋渡しする先生方の力が必要で、その意味では、同窓会の人たちが現場の先生方との橋渡しをするのがよいことと考えます。

未来へつなぐ同窓会活動

司会　最後に、未来へつなぐという意味でご意見を伺います。

杉田　同窓会も時代の変化とともに変容していかなければならない。変化の激しい時代にあって、未来永劫の計画は無理。せめて10～20年を見通し、持続可能であれば、勇気をもって決断し、前を向いて進むことをもって是としたいですね。そして会員の絆**おおや**をこれからも期待しています。

西条　本同窓会は、大学との連携をはじめ現役や卒業生に対する働きかけ、そして、支部同窓会活動の充実など、内容のある活動を展開しています。実は、こうした活動こそが、静岡大学教育学部同窓会に対する高い帰属意識に繋がっているような気がします。積み重ねてこられたご努力に恥じぬよう、今後とも、静岡大学教育学部同窓会の発展に、微力を尽くしてまいりたいと思っています。

司会　貴重なお話ありがとうございました。

静岡大学教育学部の今

静岡大学教育学部
学部長
江口　尚純

本年度より教育学部長・教育学研究科長を務めることになりました。微力ながら学部・大学院・附属学校園の発展のため努力を重ねる所存です。

国の有識者会議報告書への対応

平成29年8月に出された「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」において国立教員養成学部・大学院・附属学校園に関して様々な課題が提起され、そのあり方が厳しく問われています。国の財政状況の厳しさと相俟って、税金を使って運営される国立大学教員養成学部のミッションが改めて問い直されていると言えます。私どもは有識者会議報告書以前から国の政策動向も睨みながら課題意識を持って改革は進めてきておりますが、有識者報告書以降、改革の加速度を大きく上げています。

学部での改革

学部において最も問われているのが教員就職率向上です。教職支援室での教採指導やキャリアサポート委員会事業の一層の充実に加え、後述する「教職キャリア形成プログラム」の着実な実施、「ひよっこ先生」事業などの高校生向けの教職セミナーの実施、教職への志向性の強い入学生を確保するための入試改革（2021年度入試から実施予定）などで対応を進めています。

教育課程改革では、学生が主体的に自らの目指す教師像を見据え、教職への志向性を高めながら「教師としての強み」を自覚的に形成していくために新たに「教職キャリア形成プログラム」を策定し、本年度から本格運用を始めています。社会の進展に伴い教育界では課題が複雑化、多様化していますが、このプログラムは教員や地域社会の方々がそれぞれの強みを生かして諸課題に対応する「チーム学校」の形成にも寄与するとともに、自分の教職キャリアを見通して生涯学び続ける教員の基盤を形成するという役割も担っています。

教職IR室の設置

データ、エビデンスに基づく改革が求められていることから、新たに「教職IR室」を設置しました。今後、個人ごとの追跡が可能なタグ付けされた情報の管理システムを構築し、教員志望率の推移、教採の受験率と合格率等、体系的なデータの収集・分析を開始し、PDCAサイクルを確立するべく作業を進めています。

大学院での改革

大学院段階では国の政策により2020年度に修士課程を教職大学院に一本化することを決定し、設置に向けた準備作業を急ピッチで進めています。

これまでの教職大学院や修士課程の成果を引き継ぎつつ、新たに学校現場の教科・教科横断授業の課題を教科教育・教科専門・学習科学等の教員が協働し「理論と実践の往還」の手法を活用して解決するアクション・リサーチ型の教科教育科目の配置を始め、初任者研修の一部を代替するプログラム、教育委員会の重点施策とすり合わせた研究テーマに基づいて教育課題を追究するプログラム等、院生の学びの多様性に対応した魅力あるプログラムを構想中です。現在設置申請中ですので設置計画は変更が生じる可能性があります。

附属学校園の改革

附属学校園では、学習科学的研究、特別支援教育のセンター機能、他学部とも協働した小中学生対象の理数系イノベーション人材育成、小中連携教育、自治体の経年研修受け入れ、教育研究の成果による地域貢献、公立学校教員の研修・力量向上への貢献など、特色ある多くの取り組みを行ってきています。一方で同一校種を複数有する本学には厳しい目も向けられており、それぞれの地区の附属学校園に一層の特色化が求められています。この課題を含めて大学と附属学校園の連携を今以上に強くする目的で新たに「大学・附属学校園連携推進本部」を設置し、いくつかの部会を設けて機動的に課題に対応する体制を整えています。

また附属学校園内のガバナンスの課題も指摘されたことから、責任ある運営のために交流人事等による校園長の常勤化を第3期中期目標・計画期間中に実施する予定で準備を進めています。

地域からの要請でもある教員養成・教員研修機能の強化、高度化に向けた本学部の改革に同窓会の皆様からも応援をいただきますよう切にお願いいたします。

令和元年度 総会報告

日　時　令和元年6月8日(土)
会　場　沼津リバーサイドホテル

総　会
進行　栗田　自由　副支部長

一　開会の言葉
理事　市川　勝也

二　会長あいさつ　西条　光洋

人格、識見ともに優れ、企画力、決断力ともに秀でた杉田前会長の後を継ぐのは心苦しいことではありますが、皆様方にご迷惑をかけないように頑張ってまいります。さて、全国に大学は七六〇以上あると言われています。同じ数だけ同窓会があると思われますが、本同窓会の活動は抜きん出ていると自負しております。特に、教育学部への協力体制という意味では、充実した活動が出来ていると思っています。教員の働き方改革についても、同窓会として何ができるのか考えてまいりたいと思います。

三　祝辞　教育学部　学部長　江口　尚純

静大は有識者会議報告書以前から改革を進め、入試改革、教職計画形成プログラムの導入などにより、教員就職率向上を図ってきました。大学院は教職大学院に一本化し、新しい分野を設置して新制教職大学院として設置審査中です。附属学校・園は学習科学的研究、特別支援教育のセンター機能、理数系イノベーション人材育成、小中連携、地域貢献、研修力量向上への貢献など特色を出しています。教育学部は現代的課題対応・実践型の教員養成、さらには教育委員会と連携し、教員養成と現職教員研修を連結統合して高度化する新しい仕組みの構築を目指しています。

祝辞　静東教育事務所　所長　西山　義則

変化が激しく複雑な社会を迎え、子どもたちには知識や情報、言語を活用する力、話し合いながら問題解決する力、可能性を発揮しより良い社会と幸せな人生の作り手となる力、すなわち生きる力が求められます。県では、主体的に学ぶ姿勢を養い生きる力を育むために教師用指導資料「自分ごと、自分のこととして学ぶ子供」を示し学び手の視点で授業を作ることを求めています。教育事務所は、予測困難な時代を逞しくしなやかに共に生き抜く児童生徒の育成に資する教職員、学校、教育委員会を支えることを基本理念としています。皆様には、学校文化を創る強力な応援団としてお力添えいただければ幸いです。

四　議事
① 令和元年度　同窓会役員
② 平成30年度　会務報告・決算報告
③ 令和元年度　事業計画・予算案

五　報告事項
① 平成30年度末退任役員について
② 財政基盤の安定化に向けて
③ 送料削減に向けITの活用法

六　次年度開催支部挨拶
榛原・小笠支部理事　坂本　守

七　閉会のことば
理事　川口　壽子

交流懇親会
祝辞　沼津市教育長　奥村　篤

沼津も歴史的な誇り高い足跡を積み重ねていますが、此処彼処に本同窓会出身の方々のお名前を連ねています。変化の激しい時代を乗り越え、一人ひとりが心豊かで充実した生活を送るためには、学校教育だけでなく、学び続けるという生涯学習の基本姿勢が何より大切です。多くの方と関わり、多様な考えや価値観を受け入れ、感性と創造性を磨き自分の可能性を膨らめていく、そんな環境が令和には必要だと思います。今後ともお力添えをお願い申し上げます。

（沼津支部事務局長　室伏　清文）

目次

新旧同窓会長　座談会（司会）　西条　光洋　2～3
杉田　豊　2～3
林　のぶ　2～3
あいさつ……江口　尚純　4
総会報告……室伏　清文　5
支部だより……奥園　好文　6
平松　明子　6
岡崎　里司　7
中村　元彦　7
多彩な同窓生……中村　雅子　8
杉山　暢昌　9
OB活動……青木　隆広　10
朝比奈國雄　10
坂本　雅子　11
大学生活……田宮　縁　12
……専門基礎生活受講生　13
学部との協議会報告……松永　仁　14
附属学校・園より……小林　操　16
松永　泰弘　17
サークル・部活動……藤原　禄也　18
石間　仁美　18
袴田　莉加　19
新倉　喜裕　19
会員だより……堀江　健司　20
西之園由貴　20
来住　明彦　20
赤星紫保子　20
小田切由美　21
原　潤一郎　21
楢本　真哉　21
西山　郷史　21
同窓会方針・事業計画……22
同窓会支部一覧……22
米寿慶祝者一覧など……23
表紙絵（表・裏）……朝比奈陽子

富士支部

仲間づくりに向けて

富士支部支部長
奥園　好文
（昭和53年・小保体卒）

富士支部は、富士市と富士宮市の二市で構成され、会員は780名余りを数えます。

活動は会員同士の交流と資質の向上を目ざして、懇親会と研修会を隔年で実施しております。

平成30年度は、研修会を実施いたしました。新学習指導要領のめざす英語教育について理解を深めるために、静岡大学教育学部の内田恵教授をお招きして「英語教科化に向かって（簡単なことと難しいこと）」という題名で講演をしていただきました。

「（発信的）コミュニケーション能力の育成と異文化理解」がキーワードとなること、好奇心や楽しさが負担感を克服できるかが鍵となることなど、文部科学省の意図や習う側と教える側の視点から留意すべきことがよくわかり、大変参考になるお話でした。研修会の案内を全教職員に配布した結果、他の大学出身の若手教員の参加があったことは、よかったと思います。

このほかに、支部の活動に若手教員を巻き込むという意味で、若手教員の交流会を実施しております。これは、新採3年目までの教員が、普段感じている不安や悩み、喜びやりがいについて、小グループで話し合うものです。

「悩みを抱えているのは自分だけではないことがわかってホッとした」や「子供の笑顔がモチベーションになる」などの声が聞かれました。

盛況だった内田恵教授の講演会の様子

「人は出会って知人となり、交わって友となる。そして磨き合って仲間となる」という言葉があります。

静大同窓生が、知人から友へ、そして仲間となるきっかけづくり、環境づくりにこれからも取り組んでいきたいと思います。

磐周支部

先輩に学ぶ

前磐周支部支部長
袋井市立袋井東小学校校長
平松　明子
（昭和57年・小数卒）

磐周支部は、磐田市・袋井市・森町の二市一町で構成されています。平成30年度の会員は902名です。ここ数年は新規採用の会員数が少なく、OB会員の方が現職より多い状況となっています。

磐周地区には56校の学校がありますが、会員がゼロという学校はありません。磐周各地で、静大同窓会員である教職員が、日々子どもたちのために懸命に教育活動を行っていることを、誇りに思います。

磐周支部では、全員集まっての活動は行っていませんが、毎年一回、地区連絡員研修会を開催しています。参加者は、同窓会誌「おおや」の配布等をしてくださっている各地区の連絡員の方々ですが、私たちからすると大先輩に当たり、毎回、身の引き締まる思いで研修会を開催しています。

研修会では、例年、現役校長である支部長から、学校を取り巻く教育課題や学校の現状について報告し、支部の役員の先生から「静岡大学教育学部の動向について」の講義をしていただきます。

その後の意見交換では、80代半ばの元校長先生がさっと挙手をなさって、今の教育について憂えていることなどを、蕩々と述べられます。その矍鑠としたお姿に、自分が30年も前に戻ったような感じになり、もっと勉強をしなければと改めて思いました。先輩の先生が、お元気でいらっしゃることは、本当に嬉しいことです。

さらに30年度は、県本部役員の支部訪問ということで、杉田豊会長・小林哲雄副会長からお話を伺うことができました。「静岡大学教育学部の将来ビジョン」や「就職・進学状況」についてお話していただき、私たち現役会員のみならず、OB会員の先生方も、食い入るように話を聞き、意見交換をすることができました。

関東支部

全学同窓会第三回東京交流会で感じた絆

関東支部事務局長
岡崎　里司
（昭和55年・小理卒）

全学同窓会は学部を越えて卒業生相互が交流する機会をつくろうということで、全学部の同窓会関東・首都圏5支部が連携して平成25年から始めた取り組みです。第三回を迎えた東京交流会も同じコンセプトで5支部（岳稜会東京支部、浜松工業会東京支部、理学・地学同窓会東京支部、農学部同窓会東日本支部、教育学部同窓会関東支部）から実行委員が集まり、二年半を費やして準備をしてきました。実行委員長を教育学部同窓会の土屋十二・関東支部長が務めました。会場となった霞が関ビル35階「東海大学学友会館」からの眺望は素晴らしいもので、国会議事堂、皇居、東京タワー、高層ビル群を手に取るように見ることができます。工学部電気工学科を卒業された大槻正氏から「AI・ロボットが拓く未来」と題した記念講演があり、AIロボットの現状と将来像について熱く語っていただきました。アトラクションでは、同じく工学部出身の世界的尺八奏者・田嶋直士氏の演奏が披露されました。素朴な尺八という楽器の可能性をこれからも追求していくという姿に感銘するとともに勇気をいただきました。若い世代の参加もあり、農学部を卒業したばかりの2人が紹介され、将来への期待と展望が垣間見られました。学部を越えた交流、世代を越えた交流が展開されました。石原事務局長から「今後も安心して交流できる場を作っていく」と宣言がなされ、土屋実行委員長の関東一本締めで閉会となりました。

全学同窓会来賓一同

教育学部同窓会関東支部の課題は、新規会員が増えず、会員数が年々減少していっていることです。個人情報保護から、出身大学が分かりにくくなっている環境が原因の一つのように思われます。今後、ホームページの活用を研究してまいります。

高校支部

高校支部の近況

高校支部支部長
県立富士東高校校長
中村　元彦
（昭和58年・中数卒）

高校支部は名簿登載会員200人程度の支部です。年間の事業を追ってみますと、まず5月中～下旬に第一回幹事会を開催し、前年度の事業報告・決算報告、当該年度の役員組織、事業計画・予算案を審議します。夜は懇親会を行います。

新規採用の方にもっと多く参加してもらいたいというのが近年よく出る話となっています。7月下旬には、会員の方に確認のための会員名簿および会費納入のお知らせを発送します。

10月初旬には、高校支部会報を発行するとともに、静岡大学高校教職員同窓会（通称「オール静大」）の出席者調査を行っています。12月初旬の「オール静大」の開催日には総会を行っています。ここでは、まず第一回幹事会の内容が審議され、議事終了後には研修会を設けています。

平成30年度までは、45分程度と十分な研修時間が確保できなかったこともあり、令和元年度からは、開始時間を1時間程度早め、研修の充実を図ります。テーマは学校の特徴的な取り組みや教育改革関連など多岐にわたります。2月中旬には、第二回幹事会が行われ当該年度の報告や次年度の計画が審議されます。今後の課題は、活動内容の広報および大学との連携の強化です。

生き抜くために必要な力

人材育成
コンサルタント
中村　雅子
（平成元年・小国語卒）

地方公務員から人材育成業界に転職し、はや十二年になる。研修講師として日本全国に派遣され、様々な年代の受講生の方々と関わって感じたことは、コミュニケーションの複雑化である。背景や世代が違えば「常識」も違う。十人いれば十通りの「常識」が存在する。違いを認めて歩み寄りをするなど解決策を考えれば難しいことはないと思うのだが、生きづらさを感じて心折れてしまう方々も多い。社会環境の変化が加速するこれからの時代を生き抜くために向上させておきたい力がある。

まずは「聴く力」である。仕事でも生活でも信頼関係を築くためには相手の話を正確に聴くことが求められるが、短文によるメッセージに慣れてしまうと五感を使って相手の話を聴き取る力が鈍ってくる。コミュニケーションの構成には言語だけでなく非言語が占める割合が大きいため、非言語を聴き取る（感じ取る）ことができないと、空気（場）を読めないという評価に繋がってしまう。

二つ目の「交渉力」は、日本人が苦手とすることの一つである。言葉に負のイメージがあるようだが、交渉は勝負ではない。お互いに利益があるように価値の配分をするのが上手い交渉なのだ。頭の中でシミュレーションをするよりも、まず自分の言葉で率直に伝えて相手の反応を見ることが大切である。相手の価値観を尊重しながら自分の主張もしていくという相互尊重が根底にあるべきで、言い負かすことが交渉ではない。

三つ目は「問題解決力」である。見えている問題の裏側の真の問題を解決しなければ、同じことの繰り返しになってしまうにも関わらず、視点を変えられないことがある。原因の多くは固定観念である。学校教育と異なり、社会では課題は与えられるものではなく、自らが見つけ出すものである。そのためには好奇心を持つのが一番なのだが、人と違うことに不安を感じると、学びや能力向上の種を封印してしまうことになる。言われたことしかしない、とは管理者層が若手社員に対して持っている悩みの一つである。しかし、若手社員は指示・命令されたことは正確にこなす。これまで失敗しないように教育・指導されているため、余計なことをして失敗するのは怖いというのが本音である。明確な正解がないということは大きな不安要素なのだと、私は研修講師という仕事の中で初めて気がついた。研修は失敗してもよい場であること、そして正解ではなくその時の最適解を見つけることを、研修の中で私は受講者の方々に伝えている。

この三つに限らず、時代を生き抜くために必要な力は他にもある。昨年から私は人材戦略コンサルタントとして活動しているが、社会人が学校教育で培った基礎力を生きる力に変えるためのサポートは天職だと思っている。この原稿を依頼されたのは三度目の癌の手術を終えて三か月ほど経った時だった。脅威とチャンスは表裏一体のものであり、どちらの方向から捉えるかで対処が違ってくる。もうダメだ…ではなく、じゃあ何をしよう？と柔軟に考えられる問題解決力を持っていたからこそ、私は生き延びている。

静岡県の子どもに『静岡県産』の教材を!!
2020年版
『新自習室21』
中学校３年間の内容を
基礎・基本から応用まで
わかりやすく学習できる！
●教育文化事業●
公益信託
アウル静岡教育振興基金
教育活動の充実や
中堅・若手教員育成への支援・助成
静岡県教育事業団体連絡会
の支援事業に参画
教育講演会・
「これで安心!!新１年生」の発行等への助成
(株)静岡教育出版社
静岡市駿河区曲金５丁目5-38
TEL:054-281-8870
FAX:054-286-6590
HP http://www.shizedpu.co.jp

二度目の南極越冬

気象庁職員
杉山　暢昌
（平成14年・環境教育卒）

静岡大学教育学部同窓会員のみなさま、こんにちは。第59次日本南極地域観測隊（越冬隊）で、二度目の越冬をしてきました、平成13年度卒業の杉山と申します。

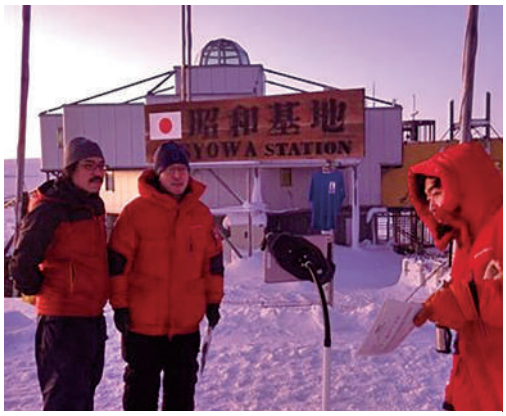
7年前の第52次日本南極地域観測隊でも越冬をしており、その帰国後、「おおや」第55号に、「南極で越冬体験」として、初めての南極生活や感じたことなどを寄稿させていただきました。二度目の今回は、前回とは立場も変わったこともあり、同じ南極生活でも、感じることが異なりましたので、その一端をお伝えできればと思います。

今回も気象庁からの派遣ということで、気象観測を主な仕事としてきました。国内でも行っている地上気象観測をはじめ、国内では限られたところでしか観測していない高層気象観測やオゾン観測など、多岐にわたる観測を、5人の気象隊員で交代しながら毎日継続して行いました。二度目ということで、気象チーフとして、気象観測の統括を受け持ちました。（ちなみに、前回は、地上気象の主担当を受け持ちました。）各観測に問題がないか担当と確認したり、観測のシフトを組んだり、観測業務全体を見るとともに、気象隊員の様子や技量を見たりと、自身が観測するだけよりも、気を配るところが多くなかなか大変でした。

高層気象観測の様子

今回の越冬中にも、国内の学校とテレビ電話をつなぎ南極の様子を伝える、南極教室をさせていただきました。前回は、母校の小学校と行いましたので、今回は、中学校にお願いして、開講させていただきました。さらに、59次夏隊同行者として、村越先生が参加されていたこともあり、附属静岡小学校とも南極教室を行いました。クイズや動画などを用い、南極の様子を楽しみながら感じてもらえるように工夫しました。中学校の南極教室では、何人かの隊員の協力を得て、生徒からの質問に答えることで、観測隊には様々な職業の人がいて、色々な目的で南極に来ていることが伝えられるように工夫をしました。どちらも、興味深そうに話を聞いてもらって、ほっとしました。

自分が南極に興味を持ったきっかけが、小学校に地元にゆかりのある鳥居鉄也さん（元越冬隊長）が講演に見えたことで、当時は不思議な話として聞いた南極の話や南極の石や氷、分厚い羽毛服など、強く印象に残りました。南極教室を通じて（児童・生徒のみではなく、先生方や保護者の方や関係者の皆さんに）、南極に限らず、これまで見たことの無い環境や職業など、広く興味を持っていただけたなら、自分も役割を果たせたのかなと思います。



南極教室のほかに南極中継も開催。左端が筆者

最後に、二度目の南極で越冬をするにあたり、様々な方のご支援ご協力、応援をいただきました。心からの謝意を示しますとともに、笑顔で送り出し、迎えてくれた家族に、「ありがとう」の言葉を送らせていただきます。

59次越冬隊集合写真
前列左端が筆者

児童・生徒、教職員、保護者を支援！

教育振興事業
奨学事業　無利息貸与・給付
教育研究助成事業　教育研究・実践活動支援等
教育文化事業　PTA・地域教育振興事業等へ助成
福祉事業　宿泊補助・祝金贈呈・教弘友の会等
共済事業　教弘保険（提携保険事業）

公益財団法人日本教育公務員弘済会静岡支部
静岡市葵区駿府町1－12　静岡県教育会館4F　054-205-5130

全国一勝を目指し

野球部
藤原禄也
（国語教育4年）

2014年6月10日、これは静岡大学硬式野球部が2度目の全国大会に出場した日です。それから5年、今年は硬式野球部創立以来指導してくださった横山先生が勇退され、ユニフォームも一新。さまざまな変化の年となりました。いまだに成し遂げられていない全国一勝を目指して、日々練習に取り組んでいます。また、全国に出場したことで近年では力のある国公立大学として全国的にも有名になりつつあり、現在、北は北海道、南は長崎県から80名を超える部員数で活動しています。そんな大所帯をまとめるため、私たちは主将、副主将だけでなく、打撃、守備、走塁の三つの部門に加え、データ班、ゲームキャプテン、投手リーダーなど学生が主体的にチームを運営するための組織を新たに設置しました。それぞれが完全に独立した組織ではなく、各部門が連携することにより

チームの組織力を高め、一人一人が責任を負いつつも協力できるようなチーム作りを目指しました。本学では、高校の部活動とは異なり所属する選手、コーチ、マネージャーに多くの自由が与えられています。どこにお金を使うのか、どんな活動を行なっていくのかなど、自分たちで決められるのが大学の部活動の良いところであると考えています。しかし、それは責任も同時に負わなければいけないということも意味します。大学の部活動の面白いところでもあり、意義でもあるのではないでしょうか。また、部員は皆野球に対してそれぞれ色々な考えを持っています。実力がある選手が特待生として入部してくるわけではありません。高校で結果が残せなかった人も数多く所属しています。そんな中で試合に勝つために考え、努力することができるのは「野球が好き」だからこそだと思います。「国公立大学だから」という考え方はこの部活ではNGです。地力だけでは他の私立大学よりも劣るからこそ、考え、つきつめ、練習する。これこそが静岡大学硬式野球部の魅力だと思っています。

目標に向かって

女子バスケットボール部
石間　仁美
（教育実践4年）

私たち女子バスケットボール部は、毎週5回、体育館で練習をしています。他の大学よりも練習時間が短いため、限られた時間の中で、いかに質のよい練習をしていけるかを考えながら、日々練習に取り組んでいます。私たちの目標は、東海学生バスケットボール連盟の中で2部に昇格することであり、私が1年生として入部した時から、チーム一丸となってこの目標を達成しようとしています。去年は、入れ替え戦には進んだものの、惜しくも敗退してしまい、目標を達成しきれませんでした。その悔しさを糧に、今年はリベンジを果たしたいと思います。

女子バスケットボール部は、現在、4年3人、3年3人、2年4人、そして春から入学した新入生を含め、16人程で活動しています。今年は新入生が多く、部内の活気にもつながっています。1年から4年までが在籍しているチームですが、学年問わず仲が良く、練習の前後の時間では、いつも笑顔が絶えません。練習以外にも、お花見や追いコン旅行などの行事もあり、充実した日々を送ることができます。一緒にいて楽しいチームメイトと出会うことができ、バスケ部に入部して良かったなと私自身思っています。

このように、私たちが充実した活動を行えているのは、監督である祝原先生をはじめに、保護者の方、OGの皆様など、多くの方々の支えがあるからです。恵まれた環境でバスケができることへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも静岡大学の女子バスケットボール部として練習に励んでいきたいと思います。

心一つに、夢を叶える

静岡大学よさこい
サークルお茶ノ子祭々
袴田　莉加
（英語教育3年）

私達お茶ノ子祭々は、今年で創立十二年を迎えます。静岡という地を、よさこいを通して盛り上げたいと、考えた数人の学生によって作られました。今では総勢百名を超えるサークルとなり、少しずつ体制を変えながらも、更なる躍進のために日々努力しています。振り付けや曲の構成、衣装や小道具も自らデザイン・製作を行っております。

私達の活動目的である「静岡を盛り上げること」を達成するために地元のお祭りのみならず、全国の学生選手権や大会にも出場することで自他ともに誇れるチームを目指しています。昨年行われた、浜松がんこ祭りの学生選手権にて学生一位を獲得し、一般のチームも含めた全ての頂点である浜よさ大賞を頂きました。その時の会場の空気、お客様の表情、チームメイトの声、ステージを照らす強い光、鳴りやまない拍手。その全てが美しくて、みんなの心が一つになる瞬間をもう一度味わいたくて、一年間努力することを決意しました。

今年の私達の演舞は、静岡県は川根本町にある寸又峡～夢の吊り橋～をテーマに、その息をのむほどの絶景と、夢を追い続けることの大切さを表現した構想となっています。チームへの考えが合わず、大好きな仲間と衝突したり、何のために頑張っているのかということでさえも分からなくなってしまったりと苦しい時間もありました。私を含めた幹部には、優勝する以外の選択肢が無く、チームメイトには苦しい思いをさせてしまったと思います。結果ばかりを求めてしまっていた私達に、本当に大切なことを教えてくれたのも、チームメイトでした。お客様に伝えたい想いがある。そのためには、みんなの心が一つにならなくてはいけないと、気付かされました。

大会当日、悔いは全く無いと言っていいほど、その時にできた最高の演舞でした。結果は全国三位。目指していた数字には届かなかったけれど、鳴りやまない拍手が、私達の演舞を見て涙するお客様の姿が、やってきたことは間違っていなかったと証明してくれました。心が一つになった瞬間にしか見ることができない景色があります。振りを揃えて、心を揃える。その時に初めて私達の思いがお客様に届きます。演舞の中で、「信じ続ければ、夢は叶う」と叫ぶ場面があります。綺麗ごとなのかもしれません。大人になるにつれ、頑張っただけではどうにもならない事があると、ふとした時に気付いてしまう瞬間があります。夢だなんて遥か昔に置いてきてしまった、そんな誰かの胸にそっと届けることができたなら。私達の努力が、誰かの明日を生きる活力になるのなら。それが、私達が全てをかけて踊る理由です。

浜松がんこ祭りでの演舞（第３位入賞）

授業で青春

教育サークル「飛翔」
新倉　喜裕
（人文社会科学部3年）

学生のうちに、サークルで教育技術を学ぶことは普通はしません。今年度は、新しく45名が加入し、総勢93名となりました。

なぜ、これほど人が集まるのか。「飛翔」には、三つの魅力があります。一つ目は、**例会**。教育書の輪読、模擬授業、レポート検討をしてます。

例えば「立ち位置」。何のためにその位置に立つのか。授業行為すべてに、意図がある必要があります。

このようなことを、毎週2時間の例会の中で学んでいます。

二つ目は、**学生授業力**No.1決定戦です。各県各教科で出場し、模擬授業の上手さで戦います。

毎年、「飛翔」から全国優勝者を輩出しています。一丸となって挑む、「飛翔」での青春の代名詞です。

三つ目は、**遊び合宿**。昨年度は、夏に伊豆、春に竜洋に一泊二日で行きました。普段の学びの面とは違い、ひたすら遊ぶことで、サークル員の仲が深まります。

これらが、「飛翔」の魅力です。

「飛翔」の活動には、ほぼ毎週、現職のOB・OGの先生方が来ます。現場のお話を聞く中で、どの子も大切にすることが極めて重要だと感じます。これが、「飛翔」で学ぶことの**最大の強み**だと感じています。

しかし、決して容易ではありません。だからこそ、大学生活を謳歌しつつ、この「飛翔」で学び続けます。

令和元年度　静岡大学教育学部同窓会　方針

1　目的
(1)　会員相互の親睦を図ること
(2)　地域の教育の発展に寄与すること
(3)　静岡大学・教育学部を支援すること

2　重点事業
(1)　同窓会の生命線である支部活動の活発化と会員相互の親睦・連携強化
(2)　静岡大学教育学部と教育学部附属学校・園への全面的な協力と一層の緊密な関係
(3)　同窓会誌「おおや」の内容充実と編集に工夫を凝らし会員に新鮮さと感動を提供
(4)　財政基盤の安定化と組織活動の活発化
(5)　学習指導要領や変革期の学校教育のあり方等を話題にする支部講演会への支援強化

令和元年度　静岡大学教育学部同窓会　支部事務局一覧

支部名	支部長名	事務局長名	郵便番号	事務局所在地	事務局	電話番号	FAX番号
賀茂	鈴木健五	森本幸平	415-0024	下田市四丁目5－26	自宅(事務局長)	(090)7044-3832	(0558)23-3645
田方	亀山誠彦	齋藤　修	419-0107	田方郡函南町平井972	函南東小学校	(055)978-8848	(055)979-7084
東豆	小形丈晴	白橋達也	414-0017	伊東市幸町1－5	伊東西小学校	(0557)37-2049	(0557)37-4373
三島	中村麻美	岡山　純	411-0044	三島市徳倉767－2	三島北上中学校	(055)986-8766	(055)989-3943
駿東	山中なほみ	藤下正義	410-1121	裾野市茶畑1133	裾野向田小学校	(055)993-7050	(055)993-7051
沼津	森　雅宏	室伏清文	410-0806	沼津市本字丸子町752－11	学校給食会沼津支部	(090)1476-3224	(055)951-6626
富士	奥園好文	神尾昌孝	417-0801	富士市大淵2585－3	富士教育会館	(0545)35-7575	(0545)35-7576
庵原	大島英俊	久保田勇司	421-3213	静岡市清水区蒲原中571－5	自宅(事務局長)	(054)385-2558	
清水	鈴木崇正	望月和彦	424-0114	静岡市清水区庵原町574－18	自宅(事務局長)	(054)364-7891	(054)364-7891
静岡	熊谷隆弘	大箸正巳	421-2223	静岡市葵区落合103－3	玉川小学校	(054)292-2012	(054)284-0583
志太	桒原　仁	曾根　豊	421-0214	焼津市中島1050	自宅(事務局長)	(054)622-2993	
榛原	山田泰巳	渡邉哲也	428-0313	榛原郡川根本町上長尾1000	川根本町立中央小学校	(0547)56-0032	(0547)56-2057
小笠	太田友江	齊藤辰治	436-0017	掛川市杉谷734－4	小笠教育会館	(0537)24-1617	(0537)24-7909
磐周	鈴木秀和	花嶋芳久	437-1101	袋井市浅羽1322	袋井浅羽北小学校	(0538)23-3006	(0538)23-7079
浜松	内山恵美子	河合洋子	433-8104	浜松市北区東三方町149－2	浜松市教育会館	(053)482-7640	(053)482-7641
高校	中村元彦	柳生宗広	431-0431	湖西市鷲津1510－2	湖西高校	(053)575-0511	(053)575-0975
特支校	原　信夫	伊賀　匡	411-0916	駿東郡清水町中徳倉31－8	自宅(事務局長)	(055)932-4866	(055)932-4866
関東	渡邊恒雄	岡崎里司	257-0004	神奈川県秦野市下大槻348－7	自宅(事務局長)	(0463)78-3098	(0463)78-3098
愛知	伊藤敦志	梶田寿幸	456-0004	名古屋市熱田区桜田町15番2-702号	自宅(事務局長)	(052)871-1286	(052)871-1286
行政	佐野牧夫	小笠原暢久	420-0847	静岡市葵区西千代田町29-17-205	自宅(事務局長)	(054)247-6792	
県本部	西条光洋	松永　仁	420-0856	静岡市葵区駿府町1－12	静岡県教育会館4F	(054)253-6318	(054)253-6334

令和元年度　事業計画

平成31年4月1日現在

No.	事業	予定月日
1	平30年度「会計監査」	・4月19日(金)
2	理事会	・5月13日(月)　6月8日(土)　令和2年1月20日(月)
3	総会	・6月8日(土)　沼津リバーサイドホテル
4	支部長・事務局長会	・7月13日(土)　令和2年2月1日(土)
5	総務会	・4月15日(月)　5月13日(月)　6月17日(月) ・7月13日(土)　9月30日(月)　12月2日(月) ・令和2年1月20日(月)　2月1日(土)　3月9日(月)
6	令和元年度　米寿関係 令和2年度米寿関係推薦依頼・報告	・米寿祝詞　6月8日以降に発送 ・各支部へ名簿発送　令和元年12月 ・推薦報告　令和2年2月
7	会誌「おおや」62号原稿依頼 編集委員会 会誌「おおや」62号発行予定 会誌「おおや」63号編集計画・原稿依頼	・62号原稿締め切り　令和元年5月7日まで ・1～3月　編集計画、4～7月　編集会議 ・令和元年9月1日 ・令和元年9月～令和2年4月末日
8	役員候補者推薦委員会	・6月17日(月)　9月30日(月)　11月25日(月)
9	逝去者への弔慰	・弔電　各支部より随時
10	本部役員による支部訪問 支部事業の助成 支部総会・研修会等	・沼津（総会）、富士・高校（会長訪問） ・東豆・静岡・愛知（副会長訪問；希望） ・東京（6/15全学同窓会交流会）
11	・大学・学部との連携 ・学部役員との協議会 ・静大同窓会連絡会（交流会含む） ・新会員歓迎・説明会 ・学部学位記伝達式 ・学部退官教官惜別会	・6月17日(月)　11月予定（静大にて） ・4月～令和2年3月随時 ・4月4日(木)　学生後援会総会 ・令和2年3月 ・令和2年3月
12	学部「教員採用支援活動」 全学リクルートセミナー支援 学生後援会との諸連絡会	・1次6/22・6/29、2次8/8～9　9月～令和2年3月 ・4月～令和2年3月随時 ・4月4日(木)　学生後援会役員会、学生後援会総会
13	役員による静岡大学教育学部訪問 附属学校・幼稚園の研究協議会参加	・11月実施予定 ・10月～11月　副校長・副園長話し合い7月5日実施
14	年会費・終身会費等事務 学生終身会費納入依頼	・年間業務 ・年3回（6月、11月、令和2年2月＜4年生＞）

作者プロフィール
白日会会員
県水彩画協会委員
県女流美術協会理事
朝比奈　陽子
（昭和44年・中美卒）

◇表紙作品　『レッスンを終えて』 P100号　改組第4回日展入選
バイオリンのレッスンの帰りに、楽器店内のクラッシックなピアノを見つけ、どんな音色かなと、そっと触れてみる少女

◇裏表紙作品　『早　春　賦』 P80号　白日会90周年出品
演奏する時の緊張感や、楽器と一体となった時の心地良さなどに自分も同化し心に響く音色や雰囲気を表現できたら、と願いつつ制作しています。

卒業以来、人物をモチーフに、水彩画を描き続けてきました。
在職中は、子供たちの活動する日常の場面を、
退職後は、主にバイオリンやサックスなど楽器を奏でる人に、モデルを依頼して描いています。

静岡大学教育学部同窓会誌62号
「おおや」　令和元年9月1日発行

発行　静岡大学教育学部同窓会事務局
〒420-0856　静岡市葵区駿府町1-12　静岡県教育会館内
☎ 054－253－6318　FAX 054－253－6334

E-mail：sizukyo-dosokai@jaa.itkeeper.ne.jp
ＵＲＬ：https://ed-ohya.org

制作　八千代印刷株式会社
【編集部】　林　のぶ・鈴掛純也・長谷川敬剛
丸山久代・鈴木敦子・松永　仁・加藤順子